

# 昭和54～55年度

## 組織的調査研究活動推進事業報告書

### 1. 調査研究活動地域名

国頭郡恩納村

### 2. 調査研究活動地域選定の理由

恩納村は沖縄本島中部に位置し、比較的長い海岸線を有し、モズク養殖生産に適した広い礁湖漁場をもっている。同地域の天然モズクの生産量は、他地域に比べて必ずしも多くはないが、養殖技術の導入に最も熱心な地域である。昭和54年度期の養殖モズクの生産量は前年比3倍強の伸びを示し、昭和55年度においても前年度並の生産量があり、礁湖漁場に所せましと張られた網を管理する姿は従来の沖縄県の漁民に対する考え方を一変させるものがある。

### 3. 県内における選定地域の位置づけ

同地域の漁業は、従来礁湖内における漁業を主としていて、漁船規模は1トン以下が86%を占める典型的な零細漁業地域である。同地域は耕地も少なく、増殖技術の導入による礁湖漁場の開発に、今後の地域経済の発展を期待しなければならない面が大きい。北西～北東の季節風の強く吹く冬期においては、波静かな礁湖内で操業できるモズク養殖は同地域漁業者にとって最も適した対象業種である。県下でモズク養殖が開始されたのは、昭和52年からであり、とくに恩納村地域では、その急速な拡大のため種苗の確保、漁場の配分、他漁業との競合、赤土汚染による被害等、現場だけに限っても多くの問題が惹起している。これらの問題は今後県下各地域で起ることが予想される。本事業の活動を通じることによって、行政、試験研究、普及さらに現場を含めた問題の提起と解決策が総合的に検討される必要がある。

### 4. 活動チームの構成

#### 1) 総括責任者

水産試験場 増殖室長 金城盛徳

#### 2) 研究部門担当者名

水産試験場 主任 研究員 当真武

研究員 照屋忠敬

八重山支場研究員 勝俣亜生

#### 3) 普及部門担当者名

水産課 専門技術員 知念正男

普及員 瀬底正武